

# 道

2018年4月



大学一年の夏でした。名古屋から鹿児島行の急行列車に乗りました。郷里の岡山へ帰るためです。そこで、宮崎まで帰るという一人の女子高校生と同席になりました。口々にぞろぞろの私のことです。すから、気のきいた話もできず、ぎこちない時間をすごしたのだと思うのです。それでも、いつしか、うちとけて話すようになりました。その彼女が、次の駅で私が降りるといふ時、そっと席を立っていきました。帰ってきた彼女に私はどうしたのか尋ねました。手を洗ってきたと彼女は答えました。「汗のついた掌でお別れの握手をしたくないので」と。あわてて私も手を洗いにいきました。

春は別れと出会いの季節でもありません。僕は別れと出会いの季節でもありません。僕は一九八七年三月に上のような通信「道」を出していました。▼先日、この通信を送った人達を、三重県伊勢市に訪ねました。僕はこの通信を最後に「教員」を辞めて当地を離れていまます。いわば最後の「生徒」達と何十年ぶりの再会でした。会って相手の名前が出てこず冷や汗をかく一幕もありましたが、懐かしく時間を忘れて話し込み、美味しい魚料理とお酒をいただきました。▼この席にYさんはいませんでした。会の五日前に癌が彼女を連れ去ってしまったのです。昨年八月、〈道〉で通信の送付希望が届いて以来、〈道〉で繋がっていたYさんです。「あいたいなあ」は言葉だけに終わってしまいました。▼「生きていることが如何に幸せなことかく究極の立場でこそ感じるこの気持ち」。今年になって大腸癌の手術を受けた親友のNさん。手術前の言葉です。胸に刺さります。そのNさんとも、三重松阪で、旨い酒が飲めました。

〒710-1301

岡山県倉敷市真備町箭田 5188

090-5366-1497

michi-care@outlook.jp

<https://michi-care.jimdo.com/>

林道也



「醍醐桜」 岡山県真庭市